

製品サイズ

コミュニケーションタフ シリーズ	DW	13.5×96×905mm 15×96×905mm	コミュニケーションタフ 防音シリーズ	DW 4	16.5×96×905mm
	FW	13.5×147×905mm 15×147×905mm		FW 4	16.5×147×905mm

警告表示の種類と内容 弊社製品を長期間安全に使えるよう施工するために、またトラブルのない確実な施工をしていただくために、以下のことを必ずお守りください。

■ シンボルマークと意味：誤った取扱いをした場合に生じる危険とその程度を、次のレベルで説明しています。

 注意 誤った取扱いにより傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

■ 警告図記号について：本文中に使われている図記号の意味は、次のとおりです。

 「してはいけない」を示します。  「必ずおこなっていただくこと」を示します。

安全のためにお守りください

 注意	<ul style="list-style-type: none"> 本製品は屋内専用製品です。屋外や雨水が直接かかる場所へは使用しないでください。 トイレ、脱衣所には使用しないでください。 高所作業車等の重機を床材の上で使用すると実が折れますので、絶対に使用しないでください。 大型の配膳車や100kg以上重量がある台車は使用しないでください。重量で床材表面に傷や剥がれが生じたり、実が折れたりする恐れがあります。 ブラシマシン等は床材表面を傷付ける場合がありますので、絶対に使用しないでください。
	<ul style="list-style-type: none"> 重量物を直接置いたり、重量物を積んだ台車を直接床材の上で使用すると、床材表面が傷ついたり、実が折れる場合があります。敷板等で床材を必ず保護してご使用ください。 接着剤だまりによる硬さムラの発生を防止するため、極力ずらさないように施工してください。 床材の伸びを吸収するため、床材は壁と2~3mmの隙間をあけて施工してください。 同封する「取扱説明書」を必ずお施主様にお渡しください。

床暖房仕様について

- 本製品は、温水パネルモルタル埋め込みタイプの床暖房の仕上げ材としてもご使用いただけます。
- 製品のあばれ、突き上げ防止のため、床暖房ならし運転を行い、モルタルが十分に乾燥したのを確認してから施工してください。

施工前の注意



- 下地の不陸は床材施工後の外観や歩行感などに影響します。ゆるやかな不陸は1mあたり深さ3mm以下、部分的な不陸は深さ3mmで100cm以下となるよう、事前にセルフレベリング材などで調整してください。
- 合板下地の場合は、合板継ぎ目の段差が1mm以下となるようにサンディングなどしてください。
- 下地が十分に乾燥していることを確認してください。最も乾燥しにくいと思われる部分の下地表面を最低1ヶ所選定し、1m×1m程度のポリシートか新聞紙の4周を布テープ(ガムテープ)止めにより被覆密閉し、24時間以上放置後、下地表面が濡れ色に変色しないことを確認してください。
- セルフレベリング材は、メーカーの管理下で調合、混練されたスラリーであることを確認してください。
- 部分的に試し貼りをするなど、下地の硬化、乾燥を確認した上で施工してください(スラブ含水率10%以下、コンクリート打設後3週間以上が目安)。下地の硬化が不十分であったり、表面に粉ふきが多い状態で施工すると、接着不良の原因となります。また表面が硬化していても内部が乾燥していない場合は、床鳴り、床材の突き上げ、波打ちなどの原因となります。
- 施工前日に床材を開梱し、現場の環境に床材をなじませてください。施工後に床材が急激に吸湿すると、床鳴り、床材の突き上げ、波打ちなどの原因となります。
- 床下地表面を掃除機などで清掃してください。細かいホコリや砂などが残っていると、接着不良の原因となります。

施工時の注意



- 床材どうし軽く突き合わせるようにしてください。短辺目地部分は軽く隙間が開く(0.2~0.4mm)程度を目安とします。足でけり込んだり、ゴムハンマーで無理に叩き込んだりしないでください。
- 巾木は床材施工後に取り付けてください。また壁際の納めは、床材の伸びを吸収するため、2~3mm程度の隙間をあけて施工してください。
- 床材を長手方向に連続して施工する場合は、湿気によるフローリングの伸びにより突き上げが起きる可能性がありますので、床材の短辺接合部に0.3mm程度の隙間を空けてください。見切り材を使用して床材と見切り材の間に2~3mm程度の隙間を空けてください。
- 施工中および施工前後は、十分に換気してください。部屋を閉め切ったままで、室内の湿気が高い状態が続きますと、結露、カビ、突き上げ、波打ち、その他の不具合の原因となります。
- 本製品の廃棄は各自治体の規制に基づき適切な処理をしてください。
- 施工後は傷、汚れ防止のため、必ず養生により床材表面を保護してください。別売の弊社養生ボード・専用テープの併用をおすすめします。布製ガムテープや広幅のクラフトテープなどは、粘着力が強く、床材表面が損傷するおそれがありますので、使用しないでください。
- 養生テープをはがす場合は、ゆっくりとはがしてください。急激にはがすと床材表面が損傷するおそれがあります。
- 巾木にはソフト巾木は使用しないでください。

施工用接着剤



- 本製品の固定には必ず弊社指定の「直床ボンドウレタン」、「直床ボンド簡単ふきとりタイプ」または同等の接着剤をご使用ください。他の接着剤を使用すると、接着不良、目隙、突き上げや床鳴りなどの原因となります。
- 接着剤容器に記載された注意事項を事前によく読んでから施工してください。また、使用前に内容物をよくかきませてください。
- 接着剤の内容物が分離していることがあります、くし目で十分に混ぜ合わせた上でご使用いただければ性能上は問題はありません。
- 「直床ボンド」は、下表に従ってご使用ください。

	夏 用	冬 用
接着作業可能温度範囲	15 ~ 35°C	5 ~ 25°C
塗布量の目安	400 ~ 600 g / m ² (付属のくし目ゴテで、くし目を十分に立てて施工してください)	
養生期間		最低1日は静置・養生してください。

施工手順

1. 下地の点検・調整・清掃

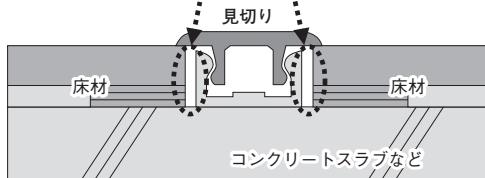
- 下地が十分に乾燥し、平滑であることを確認してください。
- 床下地表面を掃除機などで清掃してください。細かいホコリや砂などが残っていると、接着不良の原因となります。

2. 床材の割り付け・墨出し

- 2-1. ●床材を部屋に仮並べて、全体の色柄のバランスを考慮して割り付けてください。
2-2. ●床材の貼り始めは、形状が複雑など納めが困難な箇所を選んでください。
2-3. ●納めを考慮し、貼り始めの基準線を墨出します。

床材の施工距離が長い場合、床材の伸びによる波打ち、突き上げ、床鳴りなどの原因となります。
中間に市販の床見切り材を入れて、床材の伸びを吸収できる隙間を確保してください。

隙間を2~3mm設けてください。



3. 際根太の施工

※コミュニケーションタフ防音シリーズのみ。防音シリーズ以外の施工時には、際根太は使用しません。

●際根太を使用する部位

床材の施工端部が下記の部位となる場合には、必ず際根太を使用してください。
入り口、床見切、掃き出しサッシ、ドア枠など

※床材に際根太を使用する場合、隣接する床材と際根太との間隔が40mm以下となると、歩行時の荷重などにより局部的な変形が発生し、実が折れるおそれがあります。
このような場合には、隣の床材にも際根太が20mm程度かかるように、巾を調整してください。

●際根太を任意で使用する部位

壁際の巾木下部については、際根太を使用しなくとも構いません。
以下の点にご注意の上、お施主様、事業者、施工業者様で協議の上、仕様をお選びください。

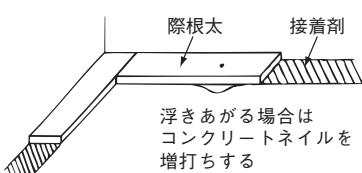
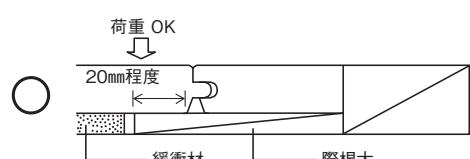
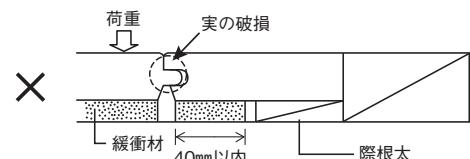
●際根太を使用する場合

壁際に家具を置いた際に、室内側に傾くことがあります。家具の転倒防止器具などをご使用ください。

●際根太を使用しない場合

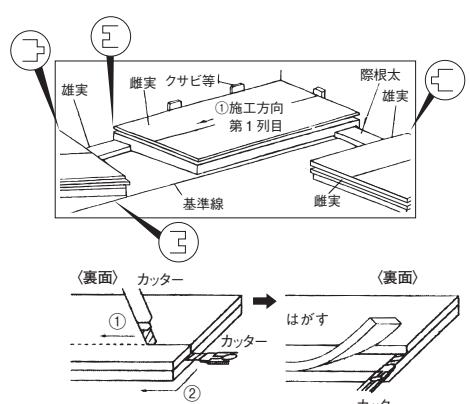
壁際を歩いた際や家具を置いた際に、巾木下部に隙間が生じます。

- 3-1. ●際根太として、同梱の當て材を20mm巾以上に切断します。
(巾が足りない場合は巾方向に継いでご使用ください。)
3-2. ●際根太を接着剤で床下地に固定します。浮きのないよう確実に固定してください。



4. 貼り始め

- 4-1. ●割り付けに従い、施工部分の巾に合うよう床材を切断します。
長辺雌実側を基準線に合わせ、長辺雄実側を切斷してください。
●雄実が壁に接する場合には、雄実を切り落としてください。
●次に施工部分の長さに合うように、短辺雄側を切斷します。
●壁に向かって右側を基準とし、雌実側が手前となるよう、基準線に沿って施工します。
●この時、壁面との隙間を2~3mm以上あけ、床材が動かないよう
クサビなどを隙間に入れてください。(接着剤硬化後は、クサビは取り除いてください)
4-2. ●際根太を充当する部分の床材裏面の緩衝材をカッターナイフで切除します。
(防音シリーズ以外は際根太を使用しませんので、床材裏面の緩衝材を切除する
必要はありません)
4-3. ●床材を仮置きして、実のはめ合い、壁面との隙間が適切であることを確認してください。



5. 1列目の床材の施工

- 5-1. ●接着剤をスラブ面と際根太上に、同梱の専用くし目ゴテで塗布します。
均一に、くし目がはっきりつくように塗布してください。
- 接着剤が、床材表面に付着した場合には、速やかに布でふき取ってください。
取れにくい場合は、布にベンジン、シンナーまたはアルコールを少量含ませてからふき取ってください。
ウレタン系接着剤は付着したまま長時間放置しますと、固まって取れなくなりますのでご注意ください。
<壁際の巾木下部>

- 際根太を壁際の巾木下部に使用する場合、床材の伸縮吸収のため、
際根太上には接着剤を塗布しないでください。

- 5-2. ●塗布後、1列目の床材を基準線に合わせて施工します。

- 可使時間を必ず守って施工してください。

- 5-3. ●床材の位置を調整し、床材を手で押さえて下地にしっかりなじませてください。

- 浮きが生じている場合には、荷重をかけ硬化するまで固定してください。

- 接着剤が硬化するまでの間、静置してください。

- 接着剤硬化前に床材に力が加わると、接着不良や床鳴りの原因となります。

養生前に床上に歩き回ったり、床材が動くような力を加えないようご注意ください。

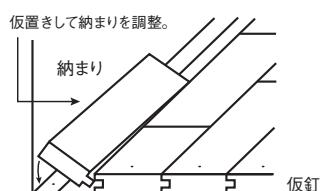
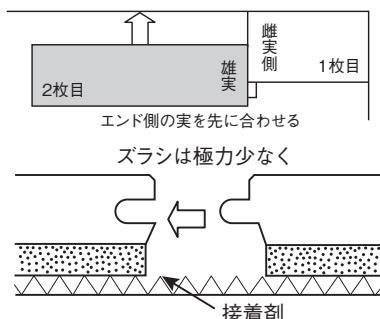
- 5-4. ●2枚目の床材を施工する際は、1枚目の床材の雌実に、2枚目の
床材の雄実を差し込むようにして施工します。

- 短辺の実を合わせながら、長辺雌実側が基準線に沿うように施工していきます。

※接着剤が床材木口部分にたまらないよう、次に施工する床材を、直前に施工した
床材のできる限り近くに置き、横ずらしを最小限として施工してください。

接着剤が木口部分にたまつた状態で硬化すると、床鳴りの原因となったり、施工後に
床上を歩いた際に床の硬さムラを感じるおそれがあります。

※短辺目地部分は、床材の伸びにより発生する不具合(目地部分の突き上げ、床全体の波打ち、床鳴り
など)を防止するため、わずかに隙間が残るように施工してください。足でけり込んだり、ゴムハンマーで
無理に叩き込むことは絶対にしないでください。

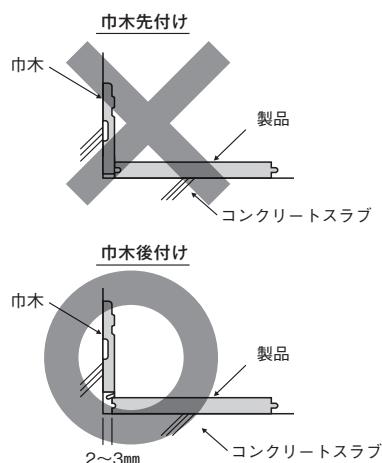


6. 2列目以降の施工

- 6-1. ●2列目以降の施工の際には、接着剤を塗布する前に必ず床材を
仮置きして、実のはめ合い、壁際との隙間が適切であることを確認して
ください。

- 6-2. ●1列目と同様、下地に接着剤を塗布し、床材を施工していきます。

- 6-3. ●巾方向のジョイントが揃わないように200~450mm程度ずらして施工してください。



8. 養生・仕上げ

- 8-1. ●作業終了後、床材の浮きや接着不良のないことを確認します。
8-2. ●ごみ、ホコリなどをほうきなどで掃き取り、固く絞った布で床材表面を拭いてください。
8-3. ●施工直後の傷や汚れを防ぐため、必ず養生により床材表面を保護してください。

別売の弊社養生ボード・専用テープの併用をお勧めします。

- 特に石膏ボードの粉などが、床表面に入らないように注意してください。

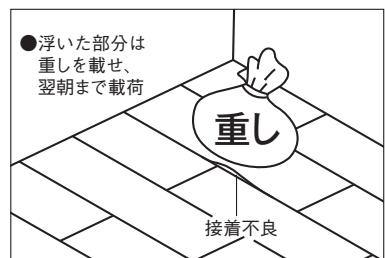
- 8-4. ●布製ガムテープや広幅クラフトテープ、ビニールテープなどは、粘着力が強く、
床材表面を損傷したり変色するおそれがありますので、使用しないでください。

- また養生テープの上を繰り返し歩行したり、重いものを載せたりすると、粘着力が
強くなりますので、ご注意ください。

- 養生テープは、ゆっくりとがしてください。急激にはがすと床材表面を損傷するおそれがあります。

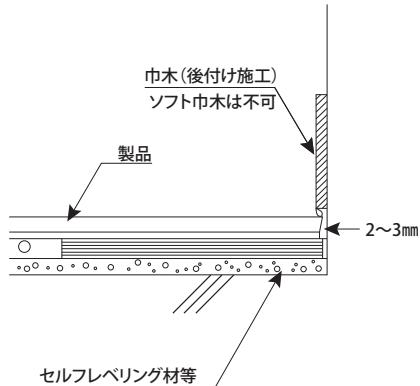
- 8-5. ●養生部分で脚立などを使用する際は、必ず養生の上に合板などを敷いてください。

- 8-6. ●施工後は室内を十分に換気してください。長時間閉め切ったままで室内の湿度が上昇し、
結露、カビ、波打ち、突き上げなどの原因になります。

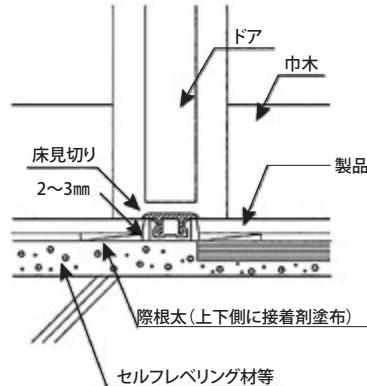


各部の納まり図

壁際部



開口部



- 施工後の床材の伸びや突き上げ対策として、開口部見切り材などにはシャクリ加工をし、床材との隙間を確保してください。
隙間が確保できない場合は、床材同士に0.3mm程度の隙間を設けたり、反対面の壁際で3mm以上の隙間を設けるなど、床材の伸びを吸収できるような対策を必ず行ってください。
- また、施工直後は、床材との2~3mmの隙間部分にクサビなどを入れてください。
接着剤硬化後は、クサビなどを必ず取り除いてください。

必ず美装業者様へお渡しください。

- ワックスは必要ありません。お客様のご都合により、ワックス掛けされる場合は、弊社「DKワックスネオ」をご使用ください。
他のワックスは、塗りムラ、密着不良等のトラブルの原因となります。(DAIKEN パーツショップ(<https://www.daiken.jp/service/>)にて販売)
- ワックス以外の厚塗り表面コート材は、床鳴りなどの不具合が発生するおそれがあります。

美装作業上のお願い

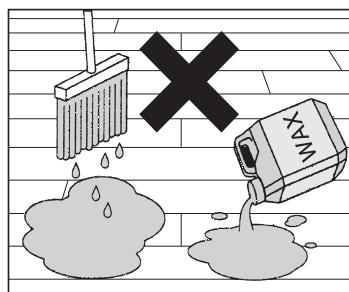


- 床面をきれいに清掃し、十分に乾燥させてください。
清掃時に多量の水を使用しないでください。床材に過剰な水分が加わりますと、床材の伸び、突き上げやふくれ、変色、床鳴りなどの原因となります。
- 汚れのひどい場所は、固く絞ったきれいな布をご使用ください。
- 固く絞ったモップや雑巾で拭いてください。また汚れた水や雑巾などを使い続けないでください。
汚れを塗り広げることになり、乾燥後に拭きムラとなって、かえって汚れが目立つ場合があります。
- 洗浄液やワックス剥離剤を使用する場合は、使用上の希釈率を守り、目立たない部分で確認してご使用ください。
また洗浄液やワックス剥離剤を床材表面に多量にまき散らすと、目地部のふくれや床鳴りなどの原因となります。
洗浄液に浸した布を固く絞り、床材の表面を目地に沿って丁寧に拭いてください。
- 作業後は、洗剤液が床面に残らないよう十分に拭き取ってください。
床材表面の洗剤液が乾かないうちに、きれいな水を含ませ固く絞った布で2回以上拭き取ってください。
- スチームモップは使用しないでください。床材は熱や蒸気に弱いため、ふくれたり変色するおそれがあります。
メラミンスポンジ、ブラシマシンなども、床材表面を傷つける原因となりますので使用しないでください。

ワックス掛けをおこなう場合



- ワックス掛けは天気のよい日を選び、窓を開けて風通しをよくしてください。
室内温度が5°C以下の場合や、雨天で湿度が極端に高い時は避けてください。
白化や密着不良などの不具合の原因となります。
- 床材表面、目地のごみやほこりを取り除きます。
床材表面、目地部を完全に乾かしてから、ワックスを塗布します。
- ワックスを洗面器などに移し、きれいな布に含ませ、しづくが落ちない程度に絞ってから塗布します。
目地にまらないよう、薄くのばすようにムラなく塗布してください。
- ワックスは床材の上に直接流さないでください。
ワックスを床材表面に多量にまき散らすと、塗布ムラや硬化不良、床材目地部分の変色やふくれ、床鳴りなどの原因となります。
- 容器の下には、必ずビニールなどを敷いてください。
- ワックスが完全に乾くまで自然乾燥してください(60分程度)。
ワックスが完全に乾くまでは、上を歩かないでください。



製品を末永く安全にご使用していただくために、ユーザー登録をお願いいたします。

ユーザー登録サービス

ご登録いただいたお客様情報は、製品安全に関する大切なお知らせや

ユーザー登録は無料です!!

暮らしに役立つ情報をDAIKENからご連絡する際に、ご利用させていただきます。 登録はこちらから <https://www.daiken.jp/user/>

DAIKEN株式会社

<https://www.daiken.jp/>

製品のお問い合わせはお客様センターへ

0120-787-505

受付時間：平日9:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始・お盆は休み)